

機械設計の感性でデザインしたコートハンガー TRI-HEX-HUNGER

機械設計の基本は概念設計と設計計算です。

求められる仕様を実現する最もシンプルかつ合理的な機構を実現するために無限に存在する機構の中から最適なものを選択し、その機構により実現される性能を設計計算により見積ります。

一方インテリアの設計に普遍的な合理性は存在しなく、それを備ったユーザの感性を想像しながらのデザインが求められます。

人の感性を定量的に表現し、それを数式で扱うのは容易なことではありません。

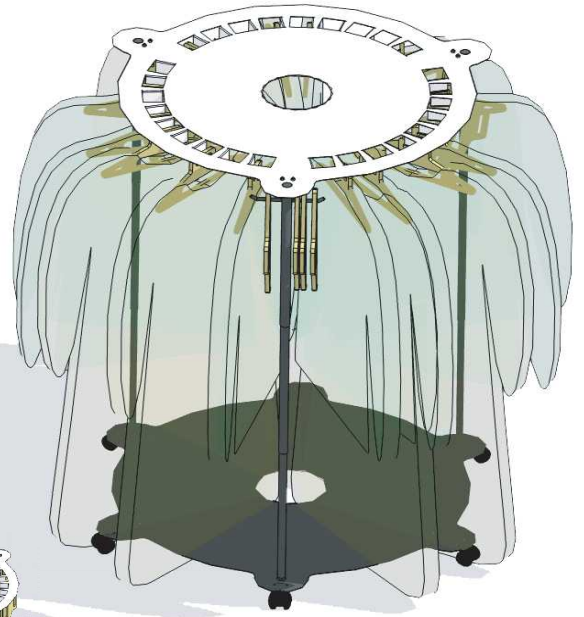
しかし、人が求める機能について定量化を行い、そして最も合理的な方法を選ぶのは不可能ではないかもしれません。

今回提案するコートハンガーはそんな機械設計の感性に基づき、求められる機能を如何に合理的に実現するかについて考えてみました。

そしてたどり着いた結論が、「日本のモノづくり力を活用する」とでした。

要求機能を新たな機構で実現する。そしてその機構を実現するためには日本のモノづくりの底力が欠かせない基礎となる。

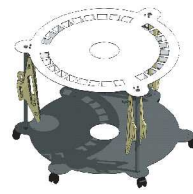
日本が新興国に負けない産業を築き上げるためには、異なる大量生産できない機能・品質を持つ製品を世の中に送り出すことかありません。



◎運搬時スタックされた Tri-Hex-Hunger



◎最大高さ設定時



◎最低高さ設定時

◎パブリックスペースで使用するコートハンガーに求められる機能とその実現

Feature 1. 複数人同時アクセスのため円形状なれど回転しない。

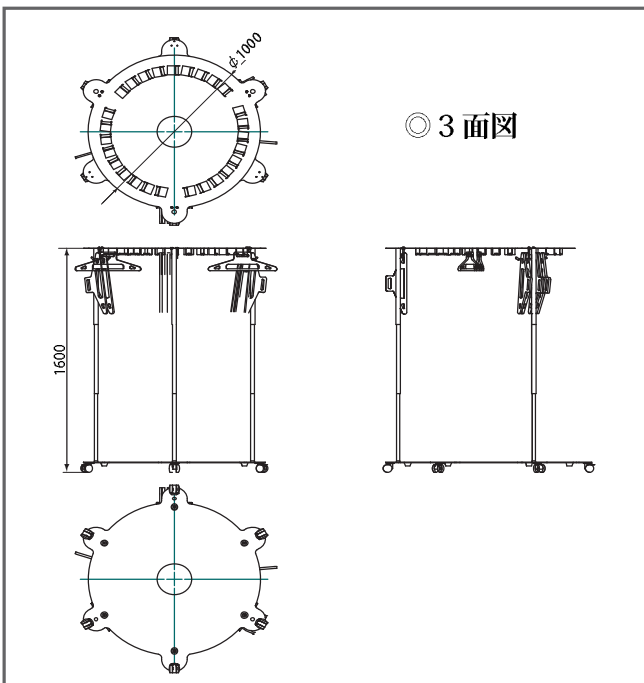
Feature 2. 高度な板金加工部品による筐体の構成

Feature 3. 特殊形状の木製ハンガーによる盗難予防と絡まり防止

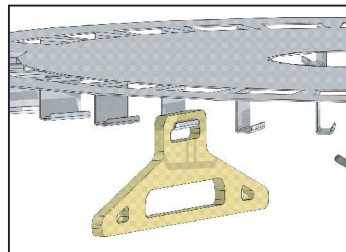
Feature 4. メインユーザの身長に応じて変更できる高さ

Feature 5. 運搬・収納時にはコンパクトに積み重ね可能

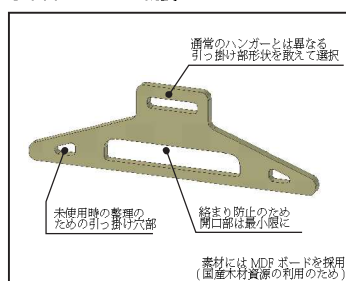
Feature 6. 天板・底板共に手荷物用スペースとして利用可能



◎ハンガー引っ掛け部の拡大



◎木製ハンガーの概要



◎未使用ハンガーの収納状態

